

第18回日本臨床毛髪学会 学術集会

アフタヌーンセミナー

◆日時:2013年11月23日(土)15:50~16:20

◆会場:パレスサイドビル9F マイナビルーム

座長

別府ガーデンヒルクリニック くらた医院 院長
日本臨床毛髪学会 常任理事、日本臨床皮膚外科学会 理事

倉田 荘太郎先生

講演

脱毛症におけるウィッグの心理的効果とそのエビデンス
大阪大学大学院医学系研究科
皮膚・毛髪再生医学寄附講座 准教授

乾 重樹先生



脱毛症における ウィッグの心理的効果と そのエビデンス

大阪大学大学院医学系研究科
皮膚・毛髪再生医学寄附講座 准教授

乾 重樹 先生

ウィッグは脱毛症をカモフラージュする手段として広く利用されているにもかかわらず、その患者心理への影響についての統計学的な検討は現在までなかった。そこで演者らは脱毛症におけるウィッグの心理的QOLへの効果について福祉用具心理評価スケール(PIADS)を用いて検討した。ウィッグ使用中の男性型脱毛症(AGA)の男性患者26名についてPIADSスコア合計はベースラインである0に比べて有意に増加し($p < 0.001$, マンホイットニーU検定)、心理的QOLがウィッグによって改善することが証明された。また、そのようなQOLの改善は効力感、積極的適応性、自尊心の3因子においても示された。さらに、PIADS合計点数、効力感、積極的適応性、自尊心のいずれもウィッグ装着時の見た目への満足度を評価したVASスケールと正に相関した($p < 0.05$, スピアマンの順位相関係数)。PIADSスコア合計、効力感、積極的適応性はノーウッド-ハミルトン分類によるAGA重症度と正に相関した ($p < 0.05$, スピアマンの順位相関係数)。また、ウィッグ使用中の49名の円形脱毛症(AA)の女性患者の調査では PIADSスコア合計はベースラインである0に比べて有意に増加しており

($p < 0.001$, マンホイットニーU検定)、効力感、積極的適応性、自尊心の3因子ともに増加していた。これにより、心理的QOLがウィッグもしくはヘアピースによって改善することが証明された。PIADS合計、効力感、積極的適応性、自尊心のいずれもウィッグ装着時の見た目への満足度を評価したVASスケールと正に相関した($p < 0.05$)。さらに女性型脱毛症(FPHL)女性患者20名ではPIADSスコア合計、効力感、積極的適応性、自尊心の3因子はともにベースラインである0に比べて有意に増加していた ($p < 0.001$, マンホイットニーU検定)。前述のようにAGAおよびAAのいずれにおいてもPIADS合計、効力感、積極的適応性、自尊心がウィッグ装着時の見た目への満足度を評価したVASスケールと正に相関していたが、FPHLではこれらの相関は見出せなかった。

以上より、脱毛症においてウィッグは使用者の心理的QOLを有意に改善し、その心理的効果のためには整容的満足が重要であることがわかった。本研究により臨床的エビデンスに基づいたアドバイスとして脱毛症患者にウィッグを勧めることが可能となった。

● 略歴

1991年 大阪大学医学部医学科卒業
1991年 大阪大学医学部皮膚科学教室入局
1992年 大阪労災病院皮膚科医員
1996-8年 米国留学(ウイスコンシン大学、ロチェスター大学)
この間、1997年 大阪大学大学院博士課程修了、学位取得
1999年 大阪大学医学部皮膚科学教室医員
2000年 大阪大学医学部皮膚科学教室助手
2006年 大阪大学医学部皮膚・毛髪再生医学寄附講座准教授
(附属病院皮膚科兼任)

【専門医資格】

日本皮膚科学会専門医、日本臨床毛髪学会認定医、日本褥瘡学会認定師(医師)、日本抗加齢医学会専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医

【学会役職】

日本臨床毛髪学会理事、日本研究皮膚科学会評議員、日本アレルギー学会代議員、日本抗加齢医学会評議員、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会評議員、日本美容皮膚科学会評議員、日本褥瘡学会評議員

【受賞】

2001年国際毛髪科学学会Oral Presentation Award、2003年JSID Shiseido Fellowship Award、ガルデルマ賞、2006年日本美容皮膚科学会 アイデアアンドイノベーション賞、2008年 日本抗加齢医学会総会 奨励賞、日本皮膚科学会東部支部総会 会長賞、2010年 日本皮膚科学会雑誌論文賞(The Journal of Dermatology)

